

2019年2月20日

第14回「児童教育実践についての研究助成」助成対象決定

博報財団(公益財団法人 博報児童教育振興会)は、第14回「児童教育実践についての研究助成」の助成対象を決定し、本日発表いたしましたのでお知らせいたします。

■ 助 成 対 象

審査委員会による厳正な審査の結果、応募総数 160 件のうち、23 件の研究を助成対象として選出しました。
詳細は「助成対象一覧」をご参照ください。

■ 今 後 の 予 定

2019年4月1日～2020年3月31日の1年間、研究助成を行います。

終了後は、助成対象者から研究成果報告書を提出していただくとともに、研究成果発表会で発表していただきます。また、助成対象者が希望する場合は、継続助成の申請をすることができます。

■ 当 事 業 の 目 的

すぐれた教育実践を生み出すためには、そのバックグラウンドとなる研究の深化・拡大が必要です。

この事業は、ことばの教育と児童教育実践の質を向上させる、新しい視点を持つ研究を助成し、その成果が教育の現場に反映され、児童教育の基盤を充実させることを目的としています。

詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.hakuhofoundation.or.jp/subsidy/>

博報財団(正式名称:公益財団法人 博報児童教育振興会)は、次代を担う子どもたちの豊かな人間性の育成のために、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「国際日本研究フェロシップ」「世界の子ども日本語ネットワーク推進」「博報財団こども研究所」など、「ことば」「文化」の領域を中心に児童教育の支援につながる活動を行っています。2018年度にはこれらに加え、新たに「博報教職育成奨学金」を設立しました。

◇ 公式ホームページ <https://www.hakuhofoundation.or.jp> ◇

■ 本件に関するお問い合わせ先:

公益財団法人 博報児童教育振興会 研究助成事業担当
TEL. 03-5570-5008 / FAX. 03-5570-5016
E-mail. hakuho.foundation@hakuhodo.co.jp

第 14 回 児童教育実践についての研究助成 助成対象一覧

助成対象研究(代表)者 (五十音順、敬称略)	研究タイトル (※はグループ研究)
赤木 和重(あかぎ かずしげ) 神戸大学人間発達環境学研究所 准教授	なぜ特別支援学級・学校の在籍児は急増しているのか？：排除としての「途中転籍」に注目して ※
朝岡 寛史(あさおか ひろし) 筑波大学人間系 特任助教	自閉スペクトラム症児における移動動詞「行く／来る」の指導法開発と教育実践への適用に関する研究
入山 満恵子(いりやま まいこ) 新潟大学教育学部 准教授	ナラティブを用いた学習言語の評価と指導法の開発：思考・学習のための言語習得に躓いている子どもの早期発見と支援のために ※
岡 檀(おか まゆみ) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター 特任助教	「統計的思考」の有無が児童の社会スキルおよび内面的資質に及ぼす影響—言葉の選択と解釈に焦点を当てて
片山 佳代子(かたやま かよこ) 神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部 主任研究員	小中学校における効果的ながん教育実践に向けた教育支援教材並びにプラットフォームの開発研究 ※
小泉 健輔(こいずみ けんすけ) 高崎健康福祉大学人間発達学部 助教	メタファー思考の育成に焦点を当てた教材開発とその実践：算数科と国語科とを教科横断的に関連付ける視点から ※
神山 典子(こうやま のりこ) 岐阜市立加納中学校 教諭	ディスレクシアのある児童生徒のこぼれを聴く力のアセスメントアプリ“みみより”の開発
後藤 崇志(ごとう たかゆき) 滋賀県立大学人間文化学部 助教	多様な文化環境の中で学ぶ意欲を高める枠組みの構築 ※
高橋 智子(たかはし ともこ) 筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 共生教育分野 大学院生	小学生に対するいじめ防止のためのピア・サポートプログラムの効果の検証—中学校移行への継続的な支援を目指して—
高松 美紀(たかまつ みき) 東京都立国際高等学校国際バカロレア部 指導教諭	俳句を中心とした伝統的な言語文化の教科横断的・文化横断的な授業実践開発に関する研究 —主体的な言語文化の担い手となる児童・生徒の育成を目指して— ※
谷本 薫彦(たにもと くにひこ) 岡山県津山市立津山西中学校 教諭	TiPSシート+タイムラプスで学習の振り返りをつぶやきから文脈へと導く研究 ※
徳竹 圭太郎(とくたけ けいたろう) 東京工業大学環境社会理工学院社会人間科学コース 大学院生	生徒の学習行動の可視化による教師向け協調学習支援システムの開発と実践 ※
中石 ゆうこ(なかいし ゆうこ) 県立広島大学総合教育センター 助教	外国につながる児童にとって難しい語をいかに説明するか—教室ですぐに使えるレファレンスの開発
中尾 尊洋(なかお たかひろ) 鳥取大学附属中学校 教諭	知識の「やりくり」による思考力育成授業の開発 ※
成田 潤也(なりた じゅんや) 厚木市立厚木第二小学校 教諭	機械翻訳を介しての外国語と国語の横断的学習に関する研究
荷方 邦夫(にかた くにお) 金沢美術工芸大学美術工芸学部一般教育等 准教授	読み手の知識を反映した改訂版リーディングスキル・テストの開発 ※

丹羽 さがの(にわ さがの) 東京家政学院大学現代生活学部児童学科 准教授	対話的実践が児童の学力に与える影響～低学年における対話的実践の効果の検討～ ※
服部 裕一郎(はっとり ゆういちろう) 高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門 講師	批判的思考力の育成を目指す算数授業の開発とその実践
平林 ルミ(ひらばやし るみ) 東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野 特任助教	ききとり困難のある子どものための評価と支援が連続した評価手法の開発 ※
藤澤 文(ふじさわ あや) 鎌倉女子大学児童学部 准教授	「考え議論する」道徳授業モデルの提案—学校(道徳授業)・大学(教員養成)・教育委員会(教員研修)を対象として
松原 未季(まつばら みき) 奈良教育大学次世代教員養成センター 特任講師	幼稚園 3 年間における幼児の社会的調整の発達: 幼児の他児の対人葛藤に対する介入行動の発達に着目して
宮坂 まみ(みやさか まみ) 環太平洋大学短期大学部人間発達学科子ども教育専攻 講師	児童が抑制の能力を発揮し得る条件を探る: ADHD 傾向との関連
米本 和弘(よねもと かずひろ) 東京医科歯科大学統合国際機構 助教	日本語と日本語話者の多様性に対する小学生の理解育成のための実践モデル構築

〈所属・役職は助成決定時のもの〉